

令和4年度

新開小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着とそれを活用する力の育成
- 他者の意見を尊重し、主体的に取り組むことのできる授業の実践
- 学校と家庭との連携による家庭学習や読書習慣の確立

学力向上検討委員会構成

- | | |
|------------------|---|
| 学力向上推進員
宮本美由紀 | 委員
校長: 菊本佳孝, 教頭: 長谷川美穂, 教務主任: 篠原美樹
研修・国語主任(4年担任): 川口紋乃
学力向上・理科主任:(6年担任)宮本美由紀
算数主任:(支援学級担任)杉本翔 |
|------------------|---|

校長

菊本 佳孝

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、課題解決に向けて努力することができる。 ●語彙が少なく、書いたり話したりすることが苦手な児童がいる。また、基礎的・基本的な内容や身に付けた知識を、他の学習や生活の場面において、関連付けたり活用したりする力に課題がある。	・漢字や計算の力を確実に身に付けている。(テストで80%以上習得する児童がクラスの8割を超える) ・学習して習得した知識を、他の単元や学習の場面で関連付けたり、活用したりすることができる。	・朝の活動や家庭学習を利用して、ミニテストや視写等を行い、基礎・基本や「書く」力の定着を図る。 ・ICT機器等を活用した学びを活かす場を設定し、児童が活用できる喜びや達成感を味わえるような学習活動を工夫する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○興味のあることに関しては、自分の思いや考えを伝えたり友達の意見を聞いたりして、意欲的に取り組める児童が多い。 ●課題を把握して、課題解決の方法を考えたり、筋道を立てて説明したり、新しい考えを作り出したりする力に課題がある。また、多様な意見から、学び合い、深め合うまでには至っていない。	・広い視野を持ち、新しく学んだ言葉や事象・友達の考えに興味を持って学習したり、それを活かして思考・表現することを楽しんだりすることができる。 ・発達段階に応じて、根拠を明らかにして、自分の考えを適切に表現できる。 ・課題や目的に応じて、タブレット端末を効果的に活用し、情報収集したり表現したりできる。	・子供新聞や市立図書館を活用して、読書の幅を広げ、得た知識や語彙を活用する機会を増やす。 (テーマ日記、短文作り、回し読み新聞等) ・ICT機器やホワイトボード、付箋等を活用し、個々の考えを表現しやすくし、活動に生かせるようにする。 ・児童が目的意識を持って対話できるように、教材や学習形態の工夫・改善を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組み、宿題もほとんどの児童が毎日提出でき、根気強く取り組んでいる。 ●自己表現が苦手であったり自分の考えに自信が持てなかったりして、学習態度が受動的な児童がいる。また、生活習慣の乱れにより集中が続かなく児童もいる。	・「自ら学ぶ 進んであいさつ いきいき運動」ができる。 ・学習状況や生活を振り返り、自らの頑張りやよさ、今後の課題を自覚することができる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、めあてを持って読書や家庭学習に取り組むことができる。	・話し合い活動を効果的に取り入れ、児童が主体となった生活・学習改善を図る。 ・自主学習ノートを紹介したり、振り返りを丁寧に行ったりして、児童の達成感を高め、次の意欲につなげる。 ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習チャレンジシート(年2回、読書項目も入れる)」を活用して、保護者と連携して学習しやすい環境作り等の支援を行う。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

